

卓球部の思い出

二十三期生 吉田 詠 一

私は、西高卓球部時代にすばらしい経験をした。この事は、一生忘れないでしょう。それ以来、私は西高卓球部の仲間を大切にしなければいけないと思ったのです。

それは、私が高校一年の冬休みの事でした。成績表を見た母は、私に卓球をやめる様にといい、練習に行く事を禁止したのです。私は、非常に怒り、二、三日、部屋に鍵をかけハリストをしていました。その事を察した卓球部の仲間達が、十二月二十九日の練習後、私の母に談判をしに来てくれたのです。あいにく母は外出して、いなかっただのですが、レポート用紙に、母宛てに、手紙を残してくれたのです。その手紙は、私の大切な財産として、今尚、机の奥にしまっておりません。この機会に、私達の同期の仲間達が、又、私達にすばらしい影響を与えて下さった、二十二期の道正さんが、私のために書いて下さったこの手紙を発表します。

卓球部一同より

自分の子の教育方針についてつべこべ言うわけではありません

せんが、とにかく、クラブはクラブ、勉強は勉強ではないかと思えます。そんなにさせることはないと思えます。ただ勉強ができればいいのではなく、人間性、人間性が問題ではないかと思えます。一応、もう一度考えてあげて下さい。

(今野)

吉田君の勉強ということが問題になっているのですが、勉強をやるといって、一日中家にとじこもっていても何もならないと思えます。たとえ、何かになって、成績が上がったとしても、それは悲しむべきことです。卓球をやって遊べというのではありません。もっと全面的な人間になる必要がある。勉強は卓球部の中で教え合う。卓球部も一面的ではなくするつもりです。

(道正)

高校では言うまでもなく、学が主、クラブが従です。けれど勉強だけ良くできて人間的にはつまらない人間が近ごろ多いのではないのでしょうか。"勉強さえできればいい"という考え、これが悪いとはいいませんが、その本人にしてみれば、これほど苦しい事はないのではないのでしょうか。"クラブをやって、勉強が落ちる"というのは、その本人が自覚していないさえすれば、防げるはずですよ。吉田君もこの一年、又は二年間、ガンバッテモライタイ!

(瀬戸)

僕も中学の時、吹奏楽部において毎日遅くまで練習していた、母によく注意されていました。ひどい時はクラブをやめろとまで言われました。結局僕はクラブをやめずに三年まで過ごしました。高校生になってから振り返ってみて、やめなくて良かったと思っています。クラブをやっているとたしかに人より勉強の時間が少なくなってしまう。しかしそれだから時間を有効に使って結局クラブをやっていない人よりよくなります。なまじっか時間がありませんとだれてしまつて内容が少なくなってしまう。勉強についてはこの位にして、クラブに入ることによって得る所は多いと思います。このこともよく考えてみて下さい。

(谷口)

僕も卓球部員として、他の人が早く帰って行くのを見ると、運動クラブなんてやだなと思います。でも、クラブには、クラスにない交友関係があり、いろいろな事が話し合え、楽しいものです。勉強も大切ですが、クラブも必要ではないでしょうか。勉強とクラブとにけじめをつけ、短い時間で能率をあげるように勉強すればよいと思います。吉田君は卓球もうまいし、その位の根性はあると思います。高校生活を楽しく有意義に過ごすためにも、クラブは必要ではないでしょうか。

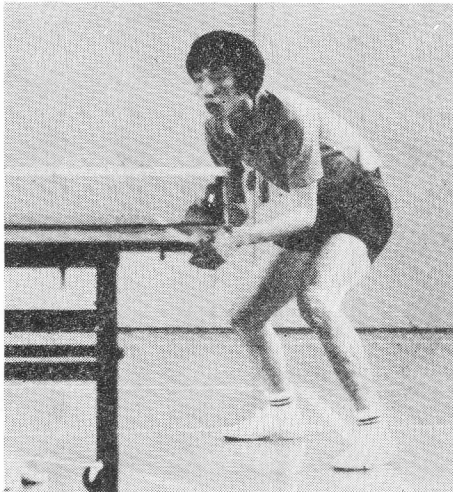
(磯崎)

ただわりやりに「勉強しろ！」と言っても、仕方がないの

ではないでしょうか。本人の意向をもう少し尊重するべきではないかと思います。卓球部としても吉田君は貴重な存在ですから、クラブに出てくるのを許してあげて下さい。お願いします。部員同志でバックアップします。

(法貴)

私のこの日の日記に、「やはり友情とはすばらしい。僕は、やはり、クラブに入った事は、誤りではなかった。西高卓球部バンザイ！」と書いてある。



▲ 記念祭で 近光